

「ヘロデの尋問」

2016年01月09日

ルカによる福音書 23章6節～12節。これを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ね、ヘロデの支配下にあることを知ると、イエスをヘロデのもとに送った。ヘロデも当時、エルサレムに滞在していたのである。彼はイエスを見ると、非常に喜んだ。というのは、イエスのうわさを聞いて、ずっと以前から会いたいと思っていたし、イエスが何かしるしを行うのを見たいと望んでいたからである。それで、いろいろと尋問したが、イエスは何もお答えにならなかった。祭司長たちと律法学者たちはそこにいて、イエスを激しく訴えた。ヘロデも自分の兵士たちと一緒にイエスをあざけり、侮辱したあげく、派手な衣を着せてピラトに送り返した。この日、ヘロデとピラトは仲がよくなった。それまでは互いに敵対していたのである。

上記のヘロデの主イエスに対する尋問はルカ福音書だけが書いている特別資料であるが、興味深いものがある。ローマの総督ピラトはエルサレム神殿当局から、主イエスはローマに反逆する政治犯として訴えられたので尋問したが、主イエスには政治的野望はなく、ユダヤの宗教的な争いであると理解した。ピラトは、主イエスはガリラヤ人であると聞き、ガリラヤは領主ヘロデの支配下にあるので、彼に裁いてもらおうと、主イエスをヘロデの元に送り届けた。ピラトはめんどくさいユダヤの宗教問題と関わりたくなかったのである。ヘロデは過越祭を祝うため、エルサレムに滞在していた。

ヘロデは送られてきた主イエスを見て大変喜んだ。彼はかつて、自分の誕生祝いの席上で、妻になったヘロデヤとその娘にそそのかされて、心ならずも洗礼者ヨハネの首をはねた。主イエスがガリラヤで力強いしるしを行っているうわさを聞き、自分が殺害したヨハネが生まれ変わり、奇跡を行っているのではと恐れていた。主イエスに一度会ってみたい、そして主イエスが行うしるしを見たいと望んでいた。

ヘロデは、目の前に送られてきた主イエスを興味深く見つめ、諸々の尋問をした。ところが主イエスは、ヘロデが期待した奇跡を行うわけでもなく、ただ黙しておられた。同行して来た祭司長や律法学者たちは主イエスを激しく訴えた。彼らはユダヤに紛争を起こす政治的罪状を訴えたであろう。そして、ユダヤ人として律法を理解するヘロデには宗教的罪もあげつらったであろう。周りは、主イエスを死刑にしようとして激昂していた。ヘロデは主イエスが何の抵抗も弁明もせず、沈黙しておられたのを見て、うわさに聞いた力ある奇跡を行う者ではなく、弱々しいただの男と見なした。神殿当局が訴える罪状などはないと思った。彼は自分の兵士たちと一緒にあって、主イエスをあざけり、侮辱した。そして、卑しめるため、派手な衣を着せてピラトに送り返した。ヘロデも主イエスは問題を起こすようなことはない、どうでもよいとしたのである。

この日から、ヘロデとピラトは仲がよくなった。ローマの支配権を振う総督ピラトとユダヤの領主を自認するヘロデは敵対関係にあった。しかしピラトが、ガリラヤの領主ヘロデに敬意を表したこと、主イエスに関して同じ認識を持てたことなどから、二人は互いを受け入れ合ったのである。ルカ福音書は、主イエスの裁判とは関わりたくないというピラトの思いを伝えている。そして、主イエスをなぶり者にしたヘロデも、無力なただの男である主イエスに興味を失い、関わりを拒否している。主イエスは最高法院、ピラト、ヘロデにたらい回しにされながら、辱めを受け続けられた。